

ためてスポーツ 大会の様子



しっかりあいさつ

試合は真剣



携帯電話でアクセス

お世話になります デイサービスセンター外様

3月14日(月)、外様保
育園を改築して建設を進め
てきました「デイサービス
センター外様」の開所式が
行われました。

当日の午前10時から開所
式、午後1時30分から施設
の一般公開を開催しました。

開所式では、石
田飯山市長はじめ
関係者の出席のも
と、テープカット、施行業
者への感謝状の贈呈、また
職員の紹介などが行われま
した。

この施設は、(デイサービ
ス(通所介護)の定員20名
そして、ショートステイ(短
期入所)定員が8名となり

ます。

ここは、地元の方々にと
てもお世話になりながら建
設された施設です。元外様
郵便局長の吉澤三千雄さん
がデザインしたカタクリが、
施設のシンボルフラワーと
して認定されました。

午後的一般開放には、
300人あまりの参観者が
来所し、施設内を見学され
ました。

「デイサービスセンター外
様」は、4月1日からオー
プンしています。今後とも
よろしくお願いいたします。



外様介護センターの外観



テープカット(右から岸田会長、石田市長、佐藤市議会議長)



吉澤三千雄さんデザインのカタクリ



デイサービス(通所介護)用の居室



ショートステイ(短期入所)用の居室



看板を取り付ける石田市長(右)と岸田会長

都会に住む人たちに与えられるもの 見守りとうど衆研修会より

3月22日(月)午後1
時30分から、飯山市福祉
センターで、「見守りとう
ど衆研修会」が行われま
した。

この研修会は毎年行わ
れているもので、「住み慣
れた場所で、誰もが安心
して生活が送れるよう、
住民同士の支え合いの地
域づくりをさらに推進す
る」ことを目的として実
施されています。
今回の研修会では、内



当日は、多くの聴衆が集まりました

山節先生を講師に迎え、
『風土記と現代』と題し
てお話しいただきました。
内山先生は哲学者であ
り、東京大学大学院人文
社会学系研究科・文学部・
農学部講師、三重大学生
物資源学部講師、NPO
法人森フォーラムづくり
代表などを兼任されてお
り、とてもお忙しいとい
ろ時間をさいて、はるば
る飯山まで来てくださ
いました。

講演の内容は以下
のとおりです(要
約)。

『私はいま、(群馬
県)上野村に住んで
いる。家に囲炉裏が
あり、風呂は薪で炊
いている。それを言
うと、昔は「まだそ
んな生活をしている
のか」と言われたが、
いまは「うらやまし
いですね」と言われ
る。特に囲炉裏の話
をすると、それを聞

いた相手は、囲炉裏そのも
のではなく、そこに集う人
囲炉裏の上にある鉄のヤカ
ンあるいは田舎鍋、家族の
団欒などをイメージする。
それは図らずも、都会が
失っているものなのである。
都会には、生産と消費しか
ない。個々の社会的な存在
価値が薄い。
日本との比較でフラン
スをあげる。フランスで
も過疎化が進んだ時代
が1975〜80年まで
あった。フランスでは、
7500万人の人口に対し
て、約3750の市町村が
ある。村の人口が100人
足らずのものもある。その
村の行政職員は1人。小学
校の運営や、道路、公園、
運動場、集会所などの管理
は村民によるNPOが行っ
ている。一人で4つのNPO
団体に所属している者もい
る。昼間、仕事のある者は
休日に携わり、日中の作業
は60歳以上の者(主に年金
受給者)が行う。そこでは、
一人ひとりが「かけがえの
無い存在」として大切にさ
れ、お互いに尊重しあいな
がら生活している。個々の

社会的な存在価値が
非常に強い。

フランスでは、都市
部において「存在価
値の薄さ」に気づいた
人たちが、農山村の
「存在価値の強さ」に
ひかれて、1975〜
80年代に農山村に
流入して来るようにな
った。

日本の農山村でも
同じ現象が起こる可
能性は高い。しかし、
それをただ待つのではなく、
都市部に住む者に対して何
を提起するかを考えるこ
とが必要である。都市と農
山村が互いに連携し合うこ
とが必須である。』

先生のお話は、とても示
唆に富んでいました。

今回のお
話にも関連
してきます
が、飯山市
社協では、
長野県から
の「地域発
元気づくり
支援金」の
助成を受け、
昨年から進



熱く語る内山先生



「信州いいやま暮らしの風土記」

めてきました。地域の言い
伝えや生活の知恵を、地域
の高齢者から聞き取りを
し、まとめました「信州い
いやま暮らしの風土記」を、
もうすぐ発行します。